

「アイガー北壁」を観て

ドイツ映画『アイガー北壁』の試写を観てきた。凄く良かった。

アイガー北壁とは、スイスアルプス・ハイキングに出かければ、必ず訪れるグリーンデルワルドの頭の上にそそり立つ、迫力満点の大岩壁である。

「岩崎元郎の地球を遠足」では、まだ取り上げていないが、スイスアルプス・ハイキングは大好きな遠足プログラムだ。ぼくの計画では、まずグリーンデルワルドを訪れて、3連泊する。到着は夜になるので、アイガー北壁は良くは見えない。翌朝、快晴の青い空にアイガー北壁がくっきり浮かび上がる様を見ると、皆さん歓声を上げる。この光景が見られただけでも、参加した甲斐があったと、大満足のご様子。ぼくは、得意になって生半可な知識を振り回す。

「アイガー北壁はですね、谷川岳と同じように魔の山だったんですよ」と言って、北壁を見上げながら、トニー・クルツとヒンターシュトイサーの悲劇をひとくさりご披露する。

「1936年の夏に、この二人とオーストリアの登山家二人が北壁にアタックしたんです。第一雪田への難関を振り子トラバースという技術で、ヒンターシュトイサーがトラバースに成功するんです。そのザイルを引き抜いてしまったのです。落石や悪天候で退却を始めた彼らは、そこで退路を絶たれ次々に遭難死してしまいます。トニー・クルツが一人頑張っていました。坑道口からの救助隊の手がもう少しで届くという所で、力尽きて絶命してしまっただけです。そんなドラマチックな悲劇の壁なんですよ」。

皆さんの口から、残念そうなタメ息が漏れる。

「アイガー北壁の初登攀は、1938年に『チベットの七年』で良く知られているハインリヒ・ハラーら4人の登山家によって成功しました。さあ、今日はゴンドラでメインリッペンに上がって、クライネシャイディックまでのハイキングです。花もきれいだし、ずっとアイガーが見えますよ」。ぼくの計画は、グリーンデルワルドのハイキングを楽しむと、次はツェルマット、そしてシャモニ(ここはフランスだが)と回ってくる。

閑話休題

年始のバタバタで、何の予備知識も無く、試写の会場に出かけた。受付でプログラムを貰って、初めてトニー・クルツとヒンターシュトイサーを主人公にした映画であることを知った。悲劇だから、暗い映画なんだろうな、と覚悟を決めて試写に臨んだ。ところがびっくり、さすが名監督。トニー・クルツの恋人、ルイーゼを登場させたのだ。ストーリーは観てのお楽しみだが、127分があつという間であった。

見終わって、生きているっていいもんだな、という気分になんてくれた。爽やかな純愛映画であった。3月20日からロードショーが始まる。